

岩国市立修成小学校児童が薪割り体験しました！

令和4年2月25日(金)、岩国市周東町の森林体験交流施設丸太村にて岩国市立修成小学校の5、6年生3名が、まき割りや木工作業を体験し、森林の大切さを学びました。

これは、次代を担う子どもたちに、ふるさとの森林の大切さや林業の重要性を体感し、理解を深めてもらうために、林業研究グループ「森林・里山づくり研究会」（会長：木村琢寛）が実施したものです。

まき割りでは、あまり力をかけずに簡単に割ることができる専用の道具を使う方法と、おのだけで割る方法を試しました。

工作では、家の形をしたキャンデーボックスを作りました。指導員からくぎ打ちなどを手伝ってもらいながら、オリジナルの箱を仕上げました。児童からは、「キャンデーボックスを作るのが楽しかった。（工作の）板が小さいと（作業が）難しいことがわかった。」「力を使うまき割りも、工作もとても楽しかった。周東町は自然豊かだから、自然豊かな町が続いてほしい」「1番印象に残ったのは、まきを割ること。すごく大変だった。森林は大切だし、ここの地域は森林が多いので、森林が多いことは変わらないでほしい」との感想でした。

「森林・里山づくり研究会」では、今後もこのような森林体験学習を継続し、地域の子どもたちの森林に対する意識を一層高めていきたいとしています。



丸太切り



薪割り



焼き芋



木工